

うるわし通信



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

令和3年9月

うるわしの桜井をつくる会 第11回 総会及び公開講演会を開催

昨年度はコロナウイルスの影響により、理事会、総会とも書面会議となりましたが、今年度は、リアル会議をいかに開催するかを専門医の先生方にも相談し、三密(密閉・密集・密接)を避け、参加者を絞ることも念頭に置き実施しました。総会は、8月21日(土)まほろばセンター2階研修室で、午後2時開会。出席会員23名と委任状出席は77名でした。堀井会長の挨拶では、今回2年ぶりの面談方式の会議の開催が出来たが、これまでの10年の歩みを大切にしながら、引き続きコロナについては十分な警戒が必要と話されました。



総会では、令和2年度事業報告、決算報告、会計監査報告、そして令和3年度役員改選、事業計画案、予算案について審議をいただき、すべて承認されました。尚、浅川さんからアイヌ展の活動報告と新しい事業の取り組みについての提起がありました。

①先住民族アイヌのいまを考える会主催の巡回展「先住民族アイヌは、いま」は、奈良県人権センターや桜井市・大和高田市等で開始し、多くの人たちに参加いただいた。今後10月5日まで県内各所で開催するので参加してほしい。②特別基金について、定期預金にして固定しているが、今後新しい事業に取り組んではどうか。

総会後に会場を多目的ホールに移し、「公開講演会」を開催。コロナウイルス感染拡大状況の下、歴史からの教訓や現在の取り組みについての2つの講演を頂きました。

うるわしの桜井をつくる会



第1部として、福井 正浩 氏(桜井市文化財協会評議員)を講師として、「高瀬道常『大日記』にみる感染症のコレラについて」話を頂きました。高瀬 通常氏は文政3(1820)年4月大和国十市郡荻田村の旧家に生まれ、『大日記』は嘉永5年(1852)から明治24年(1891)1月に逝去する直前まで、世の中の出来事を記録した全29巻からなる日記で、政治・外交・社会・文化・宗教・疾病・庶民の生活等が克明に記されている。特に市井の人たちを悩ました感染症コレラの大流行に住民がどのように対応してきたのか、現在世界的に大流行しているコロナの予防法の一部(人寄せ. 興行. 神事等の差止め. 密集. 密接を禁止し、死者はすぐに火葬など)が、この時既に行われていたことは興味深い。

われわれが先人から学ぶものは何かを見つめなおす必要がある。

【尚、講演録の詳細は後日発行します。希望者は連絡をください】

第2部は、「コロナがもたらしたものとこれから～臨床現場からの報告～」と題して、徳山 猛 氏(済生会中和病院 副院長)より、コロナウイルス感染の最新情報と臨床現場からの報告について、詳しいデータを示しながら、医療現場の緊迫した取り組みについて紹介を頂きました。



奈良県特別支援学校アート展を見学

楠木 克弘 本誌編集子

8月5日～14日にかけて、県庁東側にある奈良公園バスターミナルで、『第9回キラリと輝く！特別支援学校アート展』が開催されました。私は、桜井で「障害のある人もない人も ともに」卑弥呼の里芸術祭を関係者の方々と取組んでいることから、この『アート展』や、『奈良県障害者作品展』には関心を持って見学をしています。

主催は、奈良県特別支援学校校長会（養護学校8校と盲学校・聾学校）とNPO法人ならチャレンジドで、奈良県をはじめとする後援と多くの団体の協賛がされています。

目的は、～特別支援学校児童生徒と行政、企業、事業所、NPO等地域のつながりから、障害のある若者が活躍できる社会をめざします～とされています。今回は、全児童生徒1496人の合同作品も展示されていました。限られた紙面ですが、作品の一部を紹介させていただきます。キラリと輝く作品、そして私たちの想像を超える創造力で作られた作品が数多く展示されていました。



怪獣たち <二階堂養護学校 卒業生>
本当に怪獣が好きなんですね！ものすごく精密な絵



ねぶた <奈良西養護学校 卒業生>
彩り豊かで、しかも細部まで丁寧に描写、すごい



やさしい居場所(保健室) <大淀養護学校 卒業生>
カラフルで細密画のよう。写真は1/4の部分です。



つながろう <奈良養護学校 訪問教育生>
訪問教育生徒の作品がつながっています。

『卑弥呼の里 芸術祭』音楽交流イベントと作品展(予告)

うるわしの桜井をつくる会も参画している、今年度の『卑弥呼の里芸術祭』は、来年3月5日(土)に音楽交流イベントと作品展示会を市立図書館で実施予定です。内容としては、下記のとおりです。

【テーマ】燃ゆる春! ここに手をつなぐ

地元和太鼓チーム「ひびき」&不思議なトリオ ～尺タンピ～ (尺八・タンバリン・ピアノ)

【実施時期・場所】音楽交流イベント

実施時期 2022(令和4)年3月5日(土) 14:00~15:30

会場 桜井市立図書館 第1研修室 (開場 13:30~)

◆和太鼓「ひびき」の演奏



◆尺八(松本太郎)



タンバリン(田島隆)

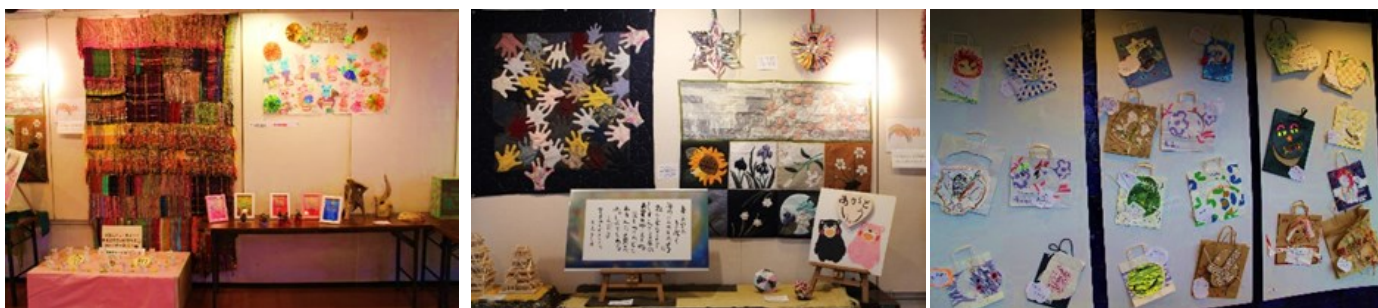


ピアノ(高橋曜子)の演奏



(2)作品展 2022(令和4)年 音楽交流イベント前後1週間(調整中)

桜井市立図書館 入口ロビー



写真は、一昨年の作品展の一部です(市民会館ロビーで開催)

【実行委員会構成組織】

○文化を考える桜井市民の会 ○NPO法人 うるわしの桜井をつくる会 ○うさみみ会

○NPO法人 さくらい人権ネット ○桜井市障害者(児)団体連合会(協力団体)

ピアニスト 大西浩子(桜井市音楽協会会員)



うるわしの桜井をつくる会10周年おめでとうございます。
私は桜井市出身で、現在は奈良市を中心にクラシック音楽の裾野を広げよう活動しております。このたびは演奏の機会を与えていただき、誠にありがとうございました。短い時間でしたが、自分の力を精一杯発揮し皆様に楽しんでいただけるような曲目を演奏いたしました。演奏曲は、ショパンのノクターン、幻想即興曲、浜辺の歌、渚のアデリーヌなどです。皆さん一息ついていただけたでしょうか。

さて、現在閉鎖中の市民会館にスタインウェイのピアノが弾き手もなく放置されています。ピアノは生き物です。故に呼吸しています。定期的な調律を欠かさない事はもちろんですが、常に気をかけて時々演奏することも大事です。そこで提案ですが新しい市役所のロビーに移転するのは如何でしょうか。桜井市音楽協会の土家先生も桜井市に請願されており、会員皆さまもこの動きを支援いただくようお願い申し上げます。

万葉からの祈り コンサートvol.2

一般社団法人まほろば芸術ラボ主催による、コンサートが市内の社寺で開催されます。一般公開の参加無料のイベントとして、10月24日(日)に等彌神社拝殿で、娘義太夫(竹本住蝶)と、クラリネットコンサート(森健太郎)がおこなわれます。

その他にも11月には1日(日)長谷寺、8日(月)三輪平等寺、12日(金)聖林寺と連続コンサートです。

事前予約が必要で、FAX:0745-27-9337 メール:info@mahorobalab.org まで。



【編集後記】

コロナ禍の収束は未だ見えてこない。三密を避け、ワクチン接種率の向上を期待するも、医療関係の現状は厳しく、自宅療養の不安は如何ほどかと思う。

県内では北和だけでなく、中南和地域での感染者も日ごと増加傾向にあり、嵐が過ぎ去るのを待つ「自己防衛」では、地域の様々なつながりが停滞し、生活基盤も行き詰ってきている。共助への支援策をはじめ、公的な防御策の一層の拡充が求められていると言わざるを得ない。

他方、地域の過疎化現象は見逃され気味であるが、コロナ拡大の前から少子高齢化の急速な進行で、地域コミュニティーの運営が困難になって来ている状況が進行している。本誌としても、足元で進行しているこれらの現状を今後取り上げていきたい。

(編集子 K)

うるわし通信発行人
高瀬 安男
TEL:090-1678-9157